

令和7年度フェロー認定（11名）	
氏名	天野 玲子
認定時の所属	株式会社 ゆうちょ銀行
抱負	これまでの産業界や国立研究開発法人等の経験と、日本工学会での活動経験を基に、日本の工学会全体のために、フェローとして活動を行いたい。
氏名	石原 直
認定時の所属	東京大学
抱負	我が国ならびに人類のより良き未来の実現を目指して、工学分野が果たすべき役割に根差した活動に参加し、合わせて未来を担う工学人材の育成に貢献して行きたいと思います。とりわけ、日本工学会の特徴たる多様性豊かな環境を大いに活用し、産官学はもとより各学協会の枠をも超えた広範な連携を推進する活動に微力ながら寄与して行きたいと思います。
氏名	伊藤 宏幸
認定時の所属	ダイキン工業株式会社
抱負	近代日本の興隆を支えてきた工学の発展に寄与し、とりわけ、複雑な社会的課題に対し果敢に挑みかつ産官学による共創的解決を逞しくリードする人材の育成に努めたい。
氏名	古関 潤一
認定時の所属	ライト工業株式会社
抱負	これまでに官庁、大学および民間企業で研究活動を行ってまいりました。多種多様な土や岩で構成される地盤中の複雑な状態を精度良く把握するのが未だに困難な現状下にある地盤工学分野には、他分野よりも大きい不確かさが残ってしまっています。一方で、地震や降雨等に起因する地盤災害が多発する我が国において、革新的な防災・減災技術の開発・実務展開に取り組む際には他分野との連携が必要不可欠です。これらに対する取り組みで学んできたことを、工学全般の進歩発展を図るうえで少しでも活用できるように努力いたします。
氏名	中北 英一
認定時の所属	京都大学
抱負	災害から人々を守り、ハッピーにして笑顔をつくりたい。それを大切なミッションとしてこれまで研究活動、社会活動が続けてきた。これまで行ってきたように土木工学、気象学等の科学・工学を大切にしながら、社会科学・文化学をも土台に、社会実装に繋がる研究を様々な分野の方々とさらに進めて行き、人々・社会の役に立ちたい。そのためには、これまで密にタイアップしてきた行政だけでなく、民間企業とも連携し、一緒に新しい学問分野や実践手法・枠組みを創って行きたい。そして、その生き方、あり方を若い人たちに伝えて行きたい。
氏名	中村 博
認定時の所属	砥粒加工学会
抱負	日本の砥粒加工技術は、工作機械、砥粒材において世界を牽引する力を有しているといっても過言ではありません。その技術の根幹を担う研究者、技術者、また匠の技能者が近年減少傾向にあることに懸念をいただいております。微力ではありますが、日本工学会に所属する学協会の皆様に、これまで培ってきた砥粒加工技術を発信することを通じて、日本が得意とするものづくり力を支えるとともに、皆様との交流活動を通じて、これからの時代に適したものづくり力を強化発展させる方途を見出して行きたいと考えます。
氏名	新関 良樹
認定時の所属	元 徳島文理大学
抱負	我が国が国際社会の中で存在感を示す上で、「ものづくり」の重要性は不変である。そのためには若い人材が工学分野に興味・意欲を持って取り組める魅力ある環境が必要である。ターボ機械の開発という限られた分野での経験ではあるが、その過程で得られた数値解析や可視化などの横断的な知見も生かして微力ながら貢献できればと考える。
氏名	花村 克悟
認定時の所属	科学技術振興機構
抱負	私は、現在、科学技術振興機構（JST）の研究開発戦略センター（CRDS）の上席フェローとして、環境・エネルギー分野を統括しています。この分野のユニットメンバーとともに国内外の研究開発動向を俯瞰しそれを報告書としてまとめると同時に、そこから次の研究開発の戦略を導き出すことを進めています。多くはサイエンスに基づくゲームチェンジング的な戦略が求められますが、同時に社会的課題の解決にもつながることが要求されます。その際には工学的な視点が極めて重要であり、両者の視点を融合できるように微力ながら貢献していきたいと思っています。

氏名	札野 順
認定時の所属	早稲田大学
抱負	
氏名	松原 仁
認定時の所属	京都橘大学
抱負	2000年代にディープラーニングが開発して以来AIが大きく発展し、AIの成果が社会で広く浸透するようになってきました。最近では生成AIも登場してますます社会におけるAIの役割は増しつつあります。AIはわれわれの生活をこれまでよりも便利してくれると期待される一方で、偽情報の発信と流通や軍事転用など負の側面も指摘されています。人間とAIがこれからどう関わっていくべきかを考えることが今後ますます重要になっていくと思われます。これまでのAI研究開発と社会実装の経験を踏まえて将来におけるAIのあり方の検討に貢献できればと考えております。
氏名	安田 恵一郎
認定時の所属	東京都立大学
抱負	工学系学部の教員としての35年を超える工学教育および工学研究の経験，さらには，電気学会，米国電気電子学会（IEEE），日本学術会議をはじめとする国内外の学協会における活動経験を活かし，我が国の工学全体に関する活動や交流事業に貢献させていただく所存です。